



近世
 說
 美
 少年
 錄
 初編
 卷一

1279
 子



馬翁微意君知名
收在片之書中

近世美少年録第一輯

曲

近世説美少年録第一輯卷之三

東都

曲亭主人編次

第五回

緑巽亭小蛇藤子胎は漏る
千本珍小兎徒命を喪ふ

再説陶瀬十郎與房の朋輩の話說めく阿夏が素生云云と波はく
吐裡小虫のやうに推量小違ひをく。渠を名ては歌妓の死。遮莫財成
の。側室壁妾小娶るとも。此のちのち取支る。さるる。良人あり。子
あふとのあるん中。虚々しく。外小あり。然りとも。知る。路の。救
福と惹かま。他の馬虫。衆人。の妻。親む。只情を。對
慾と制めく。遠離る。優。と。深念。余。后。天。雁の。翅。寄。毫
毫の便りもせざりけり。表話休題末松木偶双の。日。大津。居。送。ひ

1279
3



小夏を看とりし小夏が病著早小愈びその家のある夫婦も驚き
内菜を与へ昨夕の臥房小臥さあめて奴婢をわろく小隷措りさう
両さ大降をその日も果敢る暮る小偶次の三條宿所へおをゆ
阿夏がさる候やとびんと思ひ又その夜を明ま小夏が病著稍瘳
宿所へおとら起出くそれ天の明り早飯果る小偶次の夫婦奴婢
ホもおびを述別を告げてその阿夏が遣り置る衣裳三弦箱をを袂
包と背に肩あく小夏を先小立ん急ぐとまれ小兒を俱るめて三里の路果
敢とらむ已も半過比親子宿所へおり來る絆如此々と阿夏が報る
阿夏の竊小瀬十郎がら社と思へるも泊る之樹を竹を接ふ応答を小偶次の
訝りさう情由を知らね話りも向らむ昨夜の候を恨まけりと思ひこれ
より後の幾日も阿夏が生活暇あり疎にゆえ親を招く花主のさう

かど木偶次の又小夏を四條河原の鼓吹鼓一併踏らしと僅まの目
送る程小夏へ過る秋も八月中浣まなりしけを棚小物措く商賈も大
暇ある杪枯比のあわれが河原の人歩曲ら物観る人の稀なりとら
木偶次小夏へ錢を返取らむと歸る日の来れ舞の衣裳を典る
薪炊の代とさるもの阿夏へそれを憂とせ只瀬十郎がの牡鹿は用の
束の間も忘れぬ物あり天を瞻り送り目の柱の身を倚せ立坐せ
どもまぬ人を松吹く風の便りさう只一遍も夢えび果へ怨とち歎く身
ひとりの秋さるる捨る扇あり此へ是の比瀬十郎が響あり別
さるま渡れ目その扇小一首の歌ありと徒然る折の筆をさびあど
あくと夕立のたれ間くま昔むさかぬ櫓まの秋風良房とをさる
草書の美し人柄をさくと愛る阿夏の歌をよまひとも左さる右さる思

緑の東
入木
巽辰
巳風
巽巽
入木
風中
楓字
偏備

の心習足下と共に百首題とよまん欲去未後より彼処に未會せよ上
客の萬里小路賢房卿以下兩之友の過むこの京北に請まらざる障りある
なぐもわらぬの急慢遅滞るるんを惟祈ると書言せり瀨十郎飲び乃
者勤仕は暇多くて久く彼卿を訪ひなむ心苦く折ぬる佳會を招せぬ
いそぐ猶豫せんやと。要時宿所を候へて去の義良と告げ免許を
ゆる報翰をまらむ。却説陶瀨十郎の次の目嵯峨る兼頭卿の山莊に赴
けし。あつ下の君の先も。あふ来すて候ひ。心願く召入れて對面を傳。別
後の情を述べ。程賢房卿の訪來を以て。圓居に入り。餘兩三
箇の殿上人の障りとあり。来るるを。これも辭敵の客あり。這三人足打
と。兼頭卿の先。あ立て假山のり。る。緑巽亭に誘引る。夫の別莊に
仁の。決發を脱れる。現塵外の良園。之宗と裁られ。丹楓葉の曲演。は落澤

あつ龍田の川も外。あつ。京極。山莊。の。小倉山。山莊。あり
けん。と。あつ。可。あつ。此。あつ。後。あつ。て。あつ。狹。あつ。壯。あつ。鹿。あつ。の。あつ。鳴。あつ。声。あつ。遠。あつ。く。あつ。つ。あつ。亭。あつ。の。あつ。四。あつ。周。あつ。と。あつ。三。あつ。間。あつ。
二。あつ。房。あつ。の。あつ。分。あつ。ち。あつ。て。あつ。方。あつ。爐。あつ。あり。あつ。坐。あつ。右。あつ。の。あつ。料。あつ。席。あつ。硯。あつ。と。あつ。此。あつ。の。あつ。調。あつ。度。あつ。を。あつ。置。あつ。れ。あつ。の。あつ。あつ。の。あつ。候。
妻。あつ。亦。あつ。愛。あつ。す。あつ。有。あつ。右。あつ。而。あつ。實。あつ。主。あつ。の。あつ。坐。あつ。定。あつ。り。あつ。暗。あつ。譚。あつ。の。あつ。間。あつ。々。あつ。瀨。あつ。十。あつ。郎。あつ。の。あつ。彼。あつ。此。あつ。と。あつ。頭。あつ。を。
あつ。回。あつ。り。あつ。樹。あつ。の。あつ。梢。あつ。を。あつ。瞻。あつ。仰。あつ。す。あつ。真。あつ。紅。あつ。の。あつ。薄。あつ。紅。あつ。の。あつ。黄。あつ。の。あつ。黄。あつ。黒。あつ。の。あつ。あり。あつ。そ。あつ。中。あつ。
あつ。青。あつ。葱。あつ。と。あつ。緑。あつ。の。あつ。常。あつ。世。あつ。樹。あつ。は。あつ。れ。あつ。彼。あつ。甘。あつ。谷。あつ。は。あつ。深。あつ。と。あつ。の。あつ。山。あつ。屋。あつ。錦。あつ。を。あつ。被。あつ。る。あつ。あつ。の。あつ。あつ。
あつ。便。あつ。是。あつ。遠。あつ。兼。あつ。五。あつ。色。あつ。の。あつ。雲。あつ。と。あつ。疑。あつ。秋。あつ。色。あつ。の。あつ。目。あつ。美。あつ。く。あつ。秋。あつ。情。あつ。あつ。あつ。雨。あつ。る。あつ。然。あつ。程。あつ。の。
あつ。給。あつ。仕。あつ。配。あつ。饌。あつ。の。あつ。童。あつ。扈。あつ。後。あつ。亦。あつ。割。あつ。籠。あつ。土。あつ。器。あつ。と。あつ。り。あつ。て。あつ。席。あつ。上。あつ。の。あつ。空。あつ。排。あつ。へ。あつ。り。あつ。登。あつ。時。あつ。兼。
あつ。頭。あつ。卿。あつ。の。あつ。合。あつ。笑。あつ。る。あつ。が。あつ。賢。あつ。房。あつ。卿。あつ。と。あつ。ち。あつ。對。あつ。ひ。あつ。け。あつ。の。あつ。圓。あつ。坐。あつ。の。あつ。ヨ。あつ。く。あつ。ゆ。あつ。り。あつ。瀨。あつ。十。あつ。郎。あつ。の。あつ。
あつ。火。あつ。障。あつ。て。あつ。百。あつ。首。あつ。の。あつ。題。あつ。と。あつ。り。あつ。て。あつ。歌。あつ。と。あつ。よ。あつ。ん。と。あつ。思。あつ。ひ。あつ。の。あつ。昔。あつ。定。あつ。家。あつ。卿。あつ。の。あつ。小。あつ。倉。あつ。山。あつ。莊。
あつ。押。あつ。れる。あつ。色。あつ。紙。あつ。の。あつ。紙。あつ。是。あつ。古。あつ。歌。あつ。の。あつ。と。あつ。自。あつ。己。あつ。の。あつ。歌。あつ。の。あつ。一。あつ。首。あつ。の。あつ。是。あつ。然。あつ。と。あつ。輪。あつ。才。あつ。薄。あつ。学。あつ。る。あつ。



美代 吉作 陳十郎

至る。豫て足下とて。細骨鼓を播き。夏が本事の。想を。
 と。いひ。いひ。せん。と。いひ。外。面。と。いひ。仰。ぎ。短。景。既。に。傾。盡。し。と。下。暗。み。なり。
 たれ。も。轎。子。と。飛。と。彼。処。に。赴。死。又。轎。子。と。飛。と。帰。路。を。急。ぎ。遅。く。も。申。夜。
 程。初。更。前。後。中。の。帰。来。下。り。て。又。夜。と。共。小。遊。び。曉。さ。る。樂。し。む。る。百。共。信。ま。
 俟。せ。し。止。首。小。示。し。ぬ。瀨。十。郎。の。竹。の。仰。ぎ。ゆ。ゆ。ゆ。の。是。処。と。彼。処。の。近。も。り。
 志。殿。下。小。見。参。考。あ。ふ。く。御。長。談。の。及。び。せ。ら。ぬ。ゆ。ゆ。ゆ。の。来。ま。さ。ん。と。思。召。は。とも。而。又。
 園。と。そ。う。の。お。ま。ア。と。さ。る。べ。し。願。の。亦。某。中。の。身。の。暇。と。り。あ。ん。今。宵。の。限。と。
 久。と。固。辞。を。兼。頭。卿。推。返。し。と。これ。の。遠。慮。不。過。言。ふ。と。この。頃。の。夜。の。長。る。に。彼。
 處。で。時。を。寝。ま。とも。又。り。来。る。易。る。候。一。足。下。の。天。明。く。又。とも。京。兆。と。さ。さ。と。
 二。方。に。来。ぬ。これ。の。さ。る。外。の。あ。づ。も。あ。は。れ。夏。も。如。右。あ。ら。ぬ。後。者。の。後。者。
 海。も。要。る。と。れ。ら。返。し。と。翌。の。朝。迎。へ。ま。来。ま。さ。ん。と。い。は。れ。柱。く。の。誤。り。後。ひ。て

よ。と。辭。せ。り。論。の。賢。房。卿。の。共。侶。の。君。の。か。ま。ふ。宜。し。き。と。い。は。れ。
 せん。不。樂。の。とも。要。時。の。程。之。夏。も。あ。ま。ち。ね。か。い。急。ぐ。と。う。と。期。と。推。し。と。留。
 め。瀨。十。郎。の。ゆ。ゆ。ゆ。固。辞。より。さ。り。て。御。意。は。後。ひ。ま。う。と。と。心。を。と。終。單。の。
 然。程。は。兼。頭。賢。房。の。兩。卿。の。猛。後。者。を。促。し。と。急。ぎ。関。白。家。へ。ま。り。ぬ。へ。
 給。事。に。は。青。侍。中。各。主。の。伴。ま。あ。り。ま。り。僅。か。一。兩。箇。の。男。方。立。重。と。送。され。
 たり。の。餘。の。年。來。耳。房。の。住。の。園。吏。丈。婦。あ。の。も。忽。地。人。影。を。ぬ。く。ち。こ。い。
 垂。暮。と。ま。る。程。小。阿。夏。が。衣。裳。を。携。り。俱。と。ま。る。木。偶。の。園。吏。の。宿。所。の。
 を。縁。由。と。傳。せ。り。と。さ。の。阿。夏。の。立。立。る。と。い。は。れ。久。き。せ。ぬ。ま。り。け。れ。獨。宿。所。は。留。
 きた。る。小。夏。の。心。の。わ。れ。翌。の。朝。出。る。り。と。迎。の。來。め。と。い。ひ。措。く。と。三。條。ゆ。て。
 還。り。け。り。と。程。の。冬。の。日。を。く。没。果。の。童。扈。後。亦。は。彼。此。と。坐。席。の。燈。燭。を。
 點。し。な。ぐ。り。且。く。ま。り。在。り。と。寂。寥。々。々。な。堪。ざ。り。けん。園。吏。の。宿。所。は。退。り。て。

余後ハ其々末モ四下小人のるくなりし。阿夏のまをう背より郎の袂に振動して
喃瀬十郎ぬ薄情ゆも程アをあらあ雲中も山をるる月の野路の御堂小笠
と利生の千手の汲引也其処初々あひ合傘の濡とて嬉した夜の雨を千
崎るる三條の渡せる橋の長くと短夜明く起別れ後のあ瀬にひとま
まつとりへとあへる末ぬ君もまをさる胸の左小右く須麻のうらまえ理る願ひを
楓向の恐惶に神ゆも仏ゆも祈竭してこの傾の病を生平る刃の痲でかん刃の
目ゆらまをええや宿所の豫く知てさう立音耗がえ音領の御館のそぞの
閑小虚音のまがり八声の鶏とひとす寝寐不楽くられへく幾夜晩して
もつるくぬさび相見のまをさる首尾之夜間の人影るる怨をいれもあら
何日山岩間の送水今も忘れぬともあつて後も強顔死心つくと声立て泣
口説つ堪もく胸前合く引よまる白くも弱に巻のうふたなる雨の涙と瀬十

郎の理りと思ひさるもかうぬくゆ引放ちて嗟嘆小堪む衣領搔合して阿夏人
木石小あられればれともぬる夜の假寐の夢を忘れぬ。一日も胸を絶むある故
意音耗をせざりし。死身も木偶奴とも良人ありともいれ人ゆもあはけ
る。よりや浮う技とて浮世を渡る弱女ともぬ。あを猶密小あら君父ゆ
世人ゆ何をこの牙の越度をいよこのあ死や死まとも汚名を雪めが死恨を
と心つてぬさびあひえんと欲せしけれうらつ牙と戒めく遠離りし今れら情を
あらぬ小似れどもあん刃の為さる実情只一宵の縁る死と思ひ諦める恨も
あらトせられたるや喃と背捻りと寛解れども阿夏の背を頭を掉りて理りめ
あく云云といひつ死をさるあへとも男をみぬの情のあ刃と忘れて共侶小命を捨る
者まくり況寡木偶奴の良人小く良人小付らまを實をあらせ小夏との女見らも
宿の寓居人でゆるり。あれが月比日らま妻が細糸竹の枝めて養ひ侍り死

何とも思ひ侍らむ。然るに人のや。まうまや。あん月のうへ。一毫の事あつらひあはれり。
 これらのよきも。ゆるあはれ人語の。真の信て。妾と疎まひ。いと浅きに侍る。
 り。そのくも。過世より。結び縁。されば。果敢る。別れ。後朝。送れ。扇の。あ
 刃の。多。迹。あ。身の。歌。を。像。見。を。そ。る。愛。を。深。雪。ゆ。あ。は。放。さ。ぬ。冬。の。日。の。今。宵。
 ち。の。歌。占。の。現。憑。し。た。の。あ。れ。偽。り。さ。ら。ぬ。證。あ。これ。を。疑。ひ。散。し。と。と。披。り。く
 示。ま。の。良。房。と。正。し。識。せ。一。自。筆。の。咏。歌。昔。の。あ。ら。地。小。し。七。欲。し。筆。は。科。を。と
 夕。立。の。た。れ。間。く。あ。苔。む。と。あ。ら。ぬ。檐。の。あ。ら。秋。風。現。あ。る。も。あ。り。け。と。と。ゆ。く。ひ。敬。鳥。く
 瀬。十。郎。と。ま。恨。一。は。ま。う。ち。向。上。と。あ。ひ。初。日。の。夕。立。の。雨。小。雲。間。の。あ。り。ぬ。と。も。涙。の。雨。と
 小。歌。を。乾。ぬ。袖。の。苔。甚。ま。ま。ま。か。ふ。心。を。汲。ま。ぬ。あ。ん。身。の。あ。く。む。死。風。と。る。果。で
 づ。強。面。く。の。樂。も。あ。ら。ぬ。世。の。間。あ。存。命。て。ゆ。め。せ。ん。よ。久。の。絶。一。柴。舟。の。あ。れ。く。と

死んより。今。面。の。あ。ん。身。と。あ。れ。く。赤。心。と。る。ま。あ。ら。せ。ん。南。空。阿。弥。陀。佛。と。唱。へ。果。上。と
 傷。あ。り。一。瀬。十。郎。が。か。を。ま。ま。く。引。ま。き。抜。放。さ。え。と。ま。る。程。お。吐。嗟。と。騒。ぐ。瀬。十
 郎。の。抱。抱。禁。め。く。ま。阿。夏。短。慮。と。る。あ。る。彼。木。偶。々。の。寓。居。人。也。あ。ん。身。が。真。の
 良。人。と。ま。あ。ら。む。罪。輕。く。あ。ら。ぬ。似。れ。と。れ。の。武。弁。の。家。あ。生。れ。く。周。防。ま。二。親。あ。
 京。師。の。主。君。と。り。ま。ま。ま。の。あ。の。身。の。謹。慎。疎。ま。ぬ。忠。孝。兩。ま。る。そ。の。方。缺。て。戲
 け。た。め。と。ら。れ。ん。の。有。斯。者。あ。の。日。の。四。千。と。も。迭。ふ。あ。ら。ぬ。變。と。ら。ぬ。久。後。の。の。り。く
 有。あ。ら。ぬ。ゆ。ま。ま。古。歌。あ。る。年。毎。あ。あ。と。ら。れ。と。牽。牛。織。女。の。あ。る。夜。の。數。を。ま。ま。あ。ら
 け。は。今。宵。の。下。界。の。天。乃。河。又。來。秋。と。契。ら。ん。の。疎。む。と。ま。あ。ら。ぬ。ひ。と。と。慰。め。を。焼
 捨。の。月。の。夜。許。呂。と。表。裡。る。阿。夏。の。怨。稍。解。け。て。然。る。に。あ。ら。ぬ。あ。ん。身。と。ら。ぬ。や
 あ。夜。の。稀。り。と。も。あ。ら。ぬ。京。師。の。月。と。花。北。山。の。雪。阿。原。の。避。暑。暑。一。寒。の。折
 々。あ。ら。ぬ。の。風。の。音。信。と。田。面。の。雁。の。翅。も。便。安。と。あ。ら。ぬ。と。繰。返。た。る。草。環。の。より

添易の牽牛花も一盛る諸葛迷ひを色の花さけ。却説這男女二人の會
話の時程りと入定の事過れども兼頭卿も買戻房卿も再あゆめ來るは彼男
童亦の退りし依ふ其処の假寐やあつけん園吏のその職をねがひの亭上りして
來て瀨十郎阿夏も詰慰ることもきて深ゆ夜間の膚寒けれ阿夏瀨十
郎を誘ひ立ち次房も退くよあゆめと大なる萃種二枚措れり推ひを
これとをよその柔衣と羅紗も優より是を今宵の衣ふとく躰く布寝は假
枕をさして夢を結ぶるも現男女閑室の相會て遂に惑ひまらるる柳下惠
るるものゝこゝろの行なれ瀨十郎の月來の謹慎忽地空とるて雲起
雨降る。楚其の快樂の餘念る。後の患を省る。追はれぬ世の常言
は焦材の程り易に火と木の相生相殺び。恰も是深のどく膠もゆるる。既
既ふと瀨十郎の寝るともあつて熟睡し。五三の比ひより覺て起る。廁へ赴ける。

紙窓の簾子の間小見光々とて光る物あり。紙燭を抗てつくる。真白の
蛇をとりけ。瀨十郎の幼稚なるより。その性蛇を嫌ふ。あつてあつと驚怖
れく走りと臥簾をひの束つ。それゆゑ美し少年の齡の二八可る。阿夏と枕を
並ぐ臥る。あつたのとも覺ひ。復ら驚訝とまら。暗を定めく再なる。少年の
搔滅を如く忽地耗ちたりけり。怪しむる。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
思ひ捨く阿夏も。異なる。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
側ふよりて臥えとまら。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
怪しむ。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
胸下と。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
仰反倒れ。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。
それ瀨十郎の轉輾びる。面色恰土の。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。あつたの。

たほ似し。あま浅すや。とをるる小慌迷ひ。抱た起して。呼活ると。幾声となく。果と
枕邊小措置。送れる茶碗の冷茶を吹被る。瀬十郎の云と。嚙なく。漸くこれより
た。頭を叩き。四下をく。阿夏の恙き。り。飲と。阿夏は背を捲り。喃瀬十郎
ぬ。心と。慥め。あひ。妾の恙あ。り。あ。ん。身。の。厭。鬼。れ。ぬ。飲。所。以。て。あ。る。め。の。あ。を。と。
と。向。入。さ。れ。て。瀬。十。郎。の。ぬ。き。ひ。息。を。吻。ら。せ。り。は。れ。が。と。あ。め。入。柳。宮。に。れ。い。せ。り。覺。て。淨
手。せ。ん。と。く。廁。の。登。上。紙。窓。の。簾。子。上。の。白。蛇。の。ま。を。さ。る。う。う。性。蛇。を。嫌。ふ。を
り。て。走。り。と。あ。の。の。り。來。つ。る。二。八。可。き。美。少。年。の。あ。ん。身。と。添。臥。あ。る。あ。り。怪。し。と。あ。り。そ
猶。よ。く。あ。の。小。彼。美。少。年。の。消。失。せ。ぬ。あ。ん。身。の。熟。く。睡。り。を。あ。る。こ。の。心。の。惑。ひ。不。し。を。せ
以。捨。つ。今。衣。を。褰。く。共。に。睡。ん。と。ま。る。程。は。い。と。大。蛇。の。蛇。の。色。の。白。り。飲。青。の。り
けん。飲。よ。も。あ。の。ど。あ。ん。身。の。腰。を。巻。締。り。あ。り。と。も。あ。る。を。搔。抓。と。ぬ。れ。れ。幼。稚。を。ら
より。と。性。と。く。蛇。と。嫌。ひ。曩。ふ。肥。後。る。は。阿。蘇。沼。ゆ。く。主。君。の。蛇。穴。を。燒。ぬ。ひ

緑の東
異の辰已
わの龍蛇
之筒れ相
感の向類
相求むる
亭のあま
わの蛇藤
入の身が
ぎる一

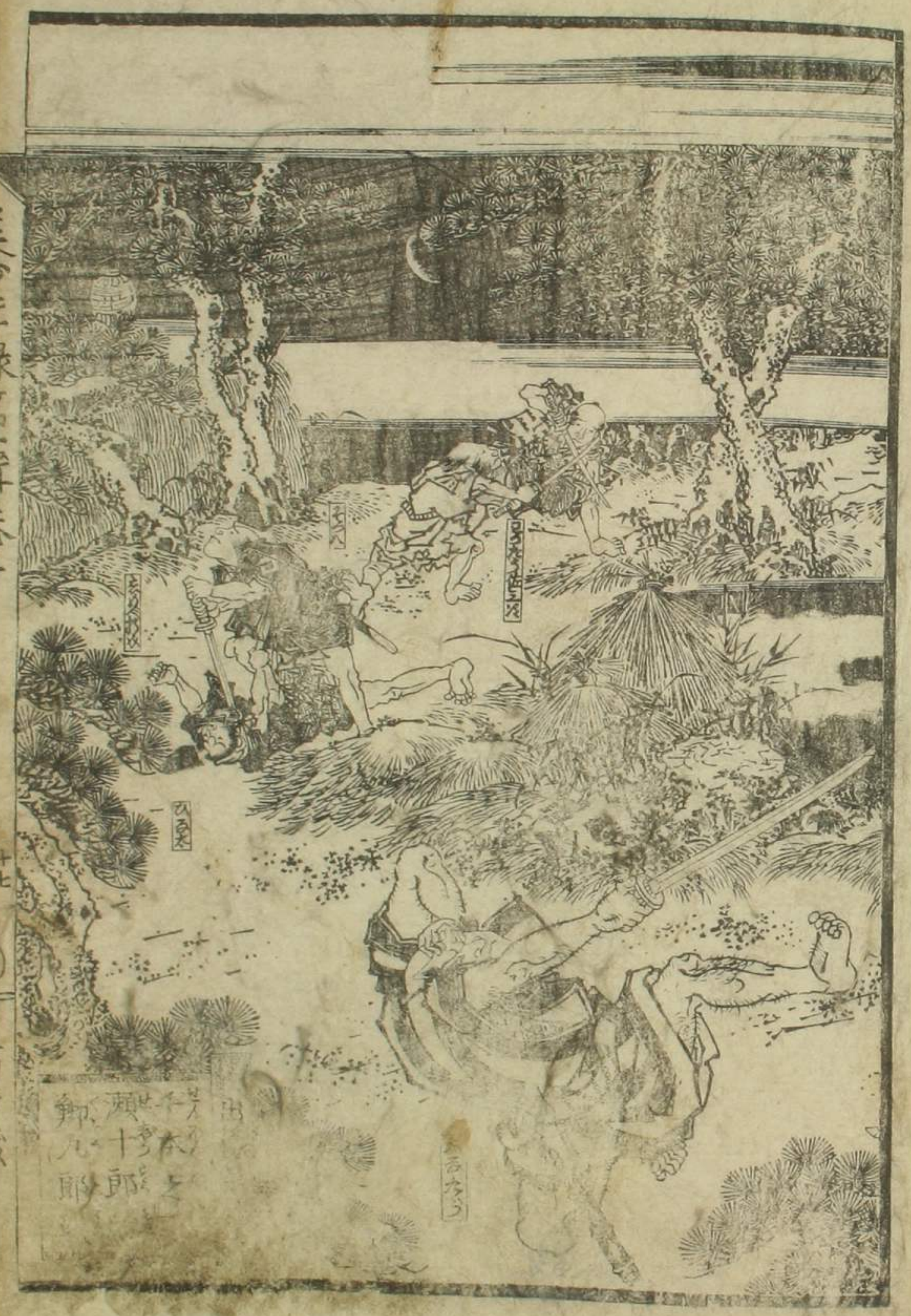
日も猛病病小假托。あん伴の立き。死。夢。を。今。宵。の。臥。簾。ゆ。く。大。蛇。を。捕。り
る。あ。れ。悔。く。も。昏。絶。し。て。介。后。の。を。あ。る。を。辛。く。と。呼。吸。通。て。を。れ。あ。ん。身。の。恙。の
ま。く。又。彼。大。蛇。も。あ。る。ゆ。る。ゆ。夢。う。現。狀。怪。し。も。あ。り。た。の。せ。り。け。り。と。報。を。阿。夏。の
夢。あ。る。を。そ。ら。あ。ん。身。の。性。と。く。い。ま。も。蛇。を。怕。む。あ。の。ゆ。も。あ。る。物。を。疑。ふ。く。處。故。罵。れ。を
あ。の。ひ。けん。み。づ。う。ゆ。い。あ。う。今。の。小。春。の。初。旬。の。は。れ。が。蛇。蝎。の。み。る。執。居。し。と。人。の。あ。ん。身
あ。の。の。ま。る。を。況。臥。房。の。大。蛇。あ。る。や。妾。の。要。時。熟。睡。し。と。あ。ん。身。の。淨。く。に。起
ぬ。ひ。ま。ら。知。ら。せ。在。り。し。を。い。ふ。し。と。何。物。飲。身。の。賣。緑。を。べ。た。よ。り。も。あ。る。の。真。実
る。と。慰。め。ら。れ。く。瀬。十。郎。の。ゆ。も。あ。り。けん。と。い。ふ。と。も。騷。だ。胸。の。月。か。ら。着。う。て
黙。然。と。う。程。の。清。涼。寺。の。鐘。の。や。あ。ん。鑄。と。と。く。近。く。御。音。く。數。樓。れ。の。五
更。の。登。時。瀬。十。郎。が。ゆ。か。う。吾。推。量。小。違。ふ。と。る。兼。頭。卿。の。白。殿。下。へ。あ。り
ぬ。ひ。く。夜。の。深。れ。ぬ。あ。ま。來。ぬ。ゆ。べ。く。も。あ。る。く。脚。館。の。ゆ。か。も。あ。り。る。ん。入。り。と。も

館中を還りける是より先小笠屋阿夏の詰朝木偶が迎ふ来るを俟
つづく三條の宿所へ入りより更の又瀬十郎とよめる初は優しと去のびくお
玉梓の使をとりて安否を問せ東西を贈るもありを瀬十郎の固く禁め
これより後月毎の薪炊の價を資し阿夏の生活は暇あつても衣裳衣
喪ふ迄小至るも左も右もあて浮世を渡るは月雪花の折を瀬十郎が
あまを俟つてとの思ひなり今少く阿夏の縁異亭にて瀬十郎と再會せし
比より有身りて妊娠十三个月及び明年の冬十月の初つる男児を産
けふこの夜の異風吹暴れて砂を飛尾を落さ真夜中此の屋棟は煩鳴
鳥鳴の聲やえりゆれこの時方りて阿夏の産の切を解る不祥大に
されども母も子も恙なく日比麗る隨肥立はけられ木偶の阿夏の懐胎の
人るまじら十三个月及び一月の心ゆらぎるあわね一條反橋の道なる賣ト

者の中の妙ありと嘗て有一日彼処に赴たてその子の名本命終始の吉
凶を問ける賣ト翁のしを嘗て著書と合し卦を布て需要時考てひら点頭
硯を引よ筆を添て子而非子非親是親一窮一達因果輪々と書寫
きてこれを木偶に授けしゆ天機の切漏さるるこの四句を記憶
せし後小笠屋合まるるあらん秘よ人の知らしむる木偶のしを頭を
搔け左見右をの恥し言るから僕の文盲なれ一句も読めし願ふ和
解しとあひねとの賣ト翁頭を掉く否今讀て嘗まるとも目今知らし
るゆのあらん持くもたひりて強面く答へたりあつた木偶の疑ひるから
宿所より云々と阿夏小報て賣ト翁の書寫する識語をなす阿夏も
いひて讀めし頭を傾け沈吟と當るも八卦當らぬも八卦と世話のいふ
今とぞ知れぬるる人向ふともその甲斐あるらんあまこの伏よあくとまよけれと

亀六駭死且怒りと卿九郎を追出し遂に京師の住ひを免さむこの故に
 九郎は河夏を恨むを舒るふより多く和泉の佐良小赴なく或は死の料理の
 技を以て人の為に傭ま又或は死の烟酒を魚の夜取ると辛くその日を
 送る程に既ゆり四稔を歴るの時又京師の卿九郎が父池澄屋龜六を
 送る程に既ゆり一ふ事少の技をなす任せむ身之心の衰へて悪棍を親
 子の恩愛折れ觸れ卿九郎をさうく思ふ氣色の言の葉未だ顯れを
 四隣の人々を猜と商量あり親子の為小義遍とる勸解に龜六
 中う危うけりし卿九郎を召返しけり然程に卿九郎の親の勘當を
 して京師を歸著るより且くの身を慎みて漫行もせありしが下過
 熱心と云ふこと世の常言の漏るるを遂に又舊病起りと相識る破落
 戸ホと交る程に河夏の四稔前つ比より陶瀬十郎と情由あるをさう知

是るものありし卿九郎を恨せんを渠が産る珠之次郎瀬十郎がさうあり誰と
 知るぬれりやと白火焼く説示せし卿九郎は大きく怒りて原来自比河夏奴
 寐くろと打て強面ありし間夫ありし所以なり先づ陶奴の結果を介後
 阿夏を殺さんと決りし瀬十郎を相殺んと欲されどもその面を認め
 六の由も小菅領家の雑色奴隷小緑を討め酒を飲し東西を贈り遂に
 このがらと交るるをゆりけり外より陶瀬十郎を認るとさうゆりけり是れ
 より瀬十郎が微行を考る日は途ゆく敷みそと尋思するは敵を
 武士するの微行の折るるとも一両箇の後者あり然るをさうゆりけり
 考く捷を攬る死友垣結び甲乙は皆是微力の博徒るれぬ時の援け
 たのゆりけり鳥部野の乞児ホ心悍く力ありて武藝相撲の長たるは
 落意するもありとゆゆりて彼ホ小銭を扱せ慈より誘引て相譚る幾人



十七

千倉千蔵

出
 千倉千蔵
 八郎

千倉千蔵



十七

千倉千蔵

八郎

千倉千蔵

易のそ。彼彼ホ一両箇返敷に。原是乞正の。所
 為と知るもの。見は優心術の。心ひと小以定。有日
 鳥部野。赴は。小見の中。筋骨の。逞げ。回魂の。下癖の
 らんと。四入。樹陰。招き。緯の。機密。耳示。懐。圓
 金四枚。を。出。四箇の。乞見。取。抑。這。乞見。ホ。霜。六鬼
 層。八。猪。弥。犬。蒲。團。鄙。太。郎。と。喚。剛。怒。懸。癖。者
 ら。一。誤。及。兼。引。悪。事。謀。合。せ。既。向。卿。九。郎。と。四。箇。の。躬
 方。と。陶。瀬。十。郎。が。微。行。何。日。と。定。知。よ。る。又。管。領。家。の。奴
 諫。小。因。て。件。の。よ。と。搜。陶。瀬。十。郎。の。多。天。満。宮。を。信。下。且。京。師。小。來。つ。比。よ。必。月。の。二。十。五。日。は。北。野。の。神。社。へ。詣。る。雨。の。日。風。の。朝。と。い。ふ。も。懈。る。と。い。ふ。と。究。竟。と。然。び。又。乞。馬。ホ。報。知。に。鐵。で。丸。と。

潜。小。兵。器。五。口。准。備。乞。馬。ホ。と。の。四。口。と。授。け。千。本。條。路。埋。伏。心。
 陶。が。北。野。より。乞。馬。ホ。と。相。譚。乞。馬。ホ。亦。扶。び。と。日。を。選。び。と。
 俟。然。程。陶。瀬。十。郎。與。房。の。身。仇。あ。知。と。本。月。二。十。五。日。北。
 野。詣。ん。と。欲。ま。る。の。日。勤。仕。暇。多。時。も。後。れ。も。然。と。已。に。野。
 あ。事。果。て。より。遠。後。者。佐。次。折。伏。を。お。て。北。野。の。神。社。詣。り。妻。
 時。神。前。小。黙。禱。と。下。向。路。と。急。と。ま。れ。千。本。條。を。過。と。死。を。言。は。れ。
 り。折。り。埋。伏。乞。馬。九。郎。の。樹。陰。小。深。く。陶。が。逆。より。跟。て。来。り。
 乞。見。ホ。の。道。中。横。り。列。臥。と。竊。も。て。渡。り。瀬。十。郎。の。心。を。夕。
 間。暮。の。み。あ。れ。乞。見。を。も。と。と。強。と。跌。死。け。こ。え。先。多。鄙。太。を。
 蹂。躪。鄙。太。の。忽。地。苦。と。叫。ぶ。暗。号。小。衆。皆。身。を。起。と。瀬。十。郎。主。役。
 遮。り。苗。刈。蒐。と。諸。声。高。く。眼。を。睜。ら。し。這。阿。侍。も。言。音。有。れ。ぬ。達。

手は目子めまこを誦よみす措かたる過世あきよをこのる果はる果はる親おやの踏ふみせぬ五尺ごしゃくの
 軀みと蹂躪しんりくられて堪たまらぬものなるなる鄙ひ鄙ひ太たの脰骨じゆくわうを踏ふみ折これけん腰こしを立たて果はる
 計はかりの寛家かんか遊あそぶとき何処どこへ逃にげまを覚おぼ期きせよと聞き許ゆるの憤いきどおり情なさけと多おほくと瀨せ十じゆ
 郎らうの柳やなぎの流ながしと此こゝの驢うまを走はり馬うまがさうち對むかひていらるよりの無理むりをなれと前路ぜんじゆ定さぶ
 又またさうし黄昏わうこん時ときの心こゝろを急いそげおらふ臥ふき人ひとありと又またさうなる術わざをなれ又また林はやし
 路ぢの道みち中なか横臥よこふしの人ひとの踏ふみと物ものを計はかり校けうを放はな然ぜんのちをなれとつら傷けがを
 承うけふ小こ似にたり入いりとも避よけたて踏ふ掛かさるる疎そ忽とつ大人おとな氣きもる争あひ佐さ三さん次じ錢ぜを奪うば
 せよといは若黨わかくま佐さ三さん次じといは朽くをくも俗よをよと見み小こ棒ぼう較けうととい入いりつ折やぶぬと目めを
 注つぐ志こゝろを推おし進すすむる袂たもと包かみを立たてる解ときとて錢ぜ一いち疋ふちを出だす畢ひ竟まつ見みる見みる
 錢ぜを受うけ瀨せ十じゆ郎らうを放はなす不ふ良りやうといは且かつち小こ見みる出だ像ざうを規きても大おほくを知しる終はり。

近世説美少年録第一輯卷之三終
 村田

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

